

第9回 理事会

日 時：令和3年1月27日(水) 9:00~13:10

場 所：Web会議

出席者：長田会長(議長)、伊藤副会長、清水副会長、
末永常務理事、秋山、池見、稲垣、太田、大谷、
大沼、奥村、小俣、北田、佐々木、竹村、徳永、
富岡、西山、長谷川(淳)、長谷川(信)、林、船山、
升元、和田各理事

監 事：野村、齋藤各監事

陪席者：熊谷(事務局)

欠席者：三好理事

(理事25名中24名出席(過半数)により理事会は成立)

議事内容：

1. 前回議事録の確認

- ・令和2年11月30日開催の第8回理事会の議事録案について承認した。

2. 審議事項

1) 会員状況の確認

- ・事務局長から1月25日時点の会員状況について説明があり、2名の正会員の入会を承認した。
- ・正会員1,831名、学生会員36名、名誉会員57名となり、総数は1,924名であることを確認した。
- ・退会者7名のうち定年退職等と想定されない30代と50代が計2名あり理由は不明である。

2) 委員・部会員の承認

- ・災害地質研究部会より2名の新任の委員について承認した。

3) 投稿規程の改定について

- ・担当理事より、標記の説明があった。議論の結果、投稿規程の改定内容について承認した。
- ・これまで記載がなかったMicrosoftといった会社名が記載されることには多少違和感があるとのコメントがあった。

4) 「地盤災害の疑問50」の執筆依頼について

- ・担当理事より、標記の依頼がなされた経緯について説明があった。引き続き清水副会長より、依頼を受けた学会の対応案について説明があった。議論の結果、本件の執筆依頼を受諾し、学会としての書籍の作成に取り組むことについて承認した。
- ・出版社から提示された「災害についての疑問」に対する回答についての記述となることから、災害地質研究部会を中心に進めることとし、必要に応じて他の研究部会等の協力を受け執筆していくこととなった。
- ・日本応用地質学会として執筆を引き受けることから、「地盤災害」ではなく「地質災害」としてはどうかといったコメントや、地盤工学会等関連する学会も

あることから、本学会の特色を出せるよう執筆内容を工夫すると良いといったコメントが出された。

5) アクションプラン2021-2022(案)について

- ・常務理事より標記の説明がなされた。議論の結果、今後継続的に理事からのコメントに留意しつつ、案の修正を行っていくこととなった。
- ・アクションプラン2021-2022の策定は3月を目指すこととし、これに先立ち2月の理事会を中途に令和2年度事業ならびにアクションプラン2019-2020について総括を行うスケジュールで進めることとなった。
- ・今回提示した案に対する理事からの表現に関するコメントに対応するとともに、新たに作成するアクションプランでは、2年間で実施できることを意識することや会員に向けたメッセージであることを踏まえることが確認された。
- ・特に、防災・減災については、縮災(レジリエンス)への対応や自然災害発生時以外の通常時における対応も盛り込んだ表現となるよう修正した方が良いとの意見が出された。

6) 理事会議事録への署名方法について

- ・常務理事より、標記に関し説明がなされた。議論の結果、定款を改定し、来年度6月からは代表理事たる会長と監事の署名のみで議事録を作成すること、定款を改定する前までは電子署名あるいは従来の署名を行うことで対応することについて承認した。
- ・会長が不在である場合における署名の取り扱いを確認することとし、電子署名のみではなくこれまで運用してきた記名・押印の併用についても検討することとなった。

7) 令和3年度総会・シンポジウムについて

- ・担当理事より、標記に関し説明がなされた。議論の結果、総会・シンポジウムの開催日を6月18日(金)とすること、コストとシンポジウムの運営を考えた場合に適切な会場を事業企画委員会で決定することについて承認した。
- ・Web開催のみとするか、Web開催と会場を使ったハイブリッド方式を採用するのかについて引き続き検討することが確認され、ネットの通信状態に留意すると良いとのコメントがあった。
- ・稲垣理事より、シンポジウムの開催に合わせて災害調査団報告書の販売を行いたいとの要望が出され、事業企画委員会と調整することとなった。

8) 「ダム地質カードカレンダー 2021年度版」について

- ・担当理事より、標記に関し説明がなされた。議論の結果、ダム地質カードカレンダーを印刷・配布することとし、本年度予算から充当することについて承

認した。

・カレンダーのデザインについては、出されたコメントに配慮することとなった。また、学会のイベント(本部・支部)についても記載を検討することとなった。

・学会誌の郵送に合わせてカレンダーを折り込むことにより、会員への還元・宣伝効果があるのではないかという意見が出された。

9) 防災学術連携体の法人化について

・清水副会長より、標記に関し説明がなされた。議論の結果、学会として法人化の提案を受諾することを承認した。

・防災学術連携体の法人化の提案の説明、定款(案)、一般規則(案)について意見があれば、2月19日までにコメントすることとした。

10) 令和3年度研究発表会について

・担当理事より、標記に関し説明がなされた。議論の結果、研究発表会の開催方法、および参加費用として適切な金額を事業企画委員会で決定することについて承認した。

・参加費については、一昨年までの費用のままでも良いのではないかといった意見や、学生が入会しやすいような費用の設定を検討してほしいとの意見が出された。

11) 日本学術会議のあり方へのアンケートについて

・常務理事より、標記に関し説明がなされた。2件の設問について、2月1日の週の前半までに意見を頂き、回答案を作成することとなった。

3. 確認事項

1) 収支状況

・事務局長から令和2年度12月期の本部収支が説明された。

・令和2年度の単年度決算としては、赤字になる可能性があることを確認した。

2) 第2回先端技術ワークショップについて

・担当理事より、標記の説明があった。現在参加者募集中であり、2月5日の申込期限まで多数の申込をお願いしたいとのことであった。

3) 令和2年度応用地質フォトコンテストについて

・担当理事より、標記の説明があった。当初の応募期限から令和3年3月31日まで延長したこと、「コンテスト 公募 コンペの [登竜門]」に当該コンテストを掲載したところ、複数の応募があったことが確認された。まだ応募期間中であるため、多数の応募を呼び掛けてほしいとのことであった。

4) 新型コロナウイルス感染症への学会の対応について

・末永常務理事より標記の報告があった。1月7日の

非常事態宣言を受けた対応が説明された。

5) 学会誌「応用地質」第62巻掲載予定記事について

・担当理事より、標記の報告があった。

6) 学会誌「応用地質」巻頭言執筆者の決定について

・常務理事より、標記の報告があった。

4. 本部からの報告事項

1) 他学協会からの依頼

・常務理事より、公開シンポジウム「地質災害研究の最先端と社会実装への取り組み」(主催:日本学術会議 地球惑星科学委員会IUGS分科会)ならびに物理探査学会オンラインセミナー「空中と海中の無人物理探査」への後援、第14回物理探査学会(SEGJ)国際シンポジウムならびに日本工学会「第2回世界エンジニアリングデー記念シンポジウム」への協賛について総務委員会で承認したことが報告された。

・常務理事より、日本工学会令和3年度フェロー候補者推薦への辞退、ならびに日本学術会議による学術フォーラム「新たな地球観への挑戦—地球惑星科学の国際学術組織の活動と日本の貢献—」(2月15日開催)の紹介について報告された。

2) 2019年台風19号等災害調査団報告会について

・担当理事より、標記報告会の開催報告、ならびに終了後に取られたアンケートの取りまとめ結果について報告があった。130名の参加があり、盛況であったこと、今回の災害において遭遇した多くの困難や今後の学会に話題提供・研究を望む多くのテーマが寄せられ、今後の活動の参考とすることが確認された。

3) 令和2年度学術振興会賞受賞者の決定について

・常務理事より、標記の件について報告された。

5. 各委員会・支部・研究部会・小委員会からの報告事項

1) 総務委員会

・常務理事より、1月20日開催の総務委員会の報告がなされた。

2) 事業企画委員会

・担当理事より、12月9日開催の事業企画委員会の報告がなされた。

3) 応用地質学教育普及委員会

・常務理事より、JABEE分野運営委員会の運営見直しについて説明があった。

4) 東北支部

・担当理事より東北支部の活動報告、ならびに今後の活動予定について説明があった。

・活動報告として、12月4～5日にかけて行われた現地研修会についての報告があった。コロナ禍における活動の参考情報となることが確認された。

5)ダイバーシティ推進特別委員会

- ・担当理事より、12月21日開催の特別委員会の報告がなされ、幹事の選出、令和3年度アース・サロン、Web連載企画等議論されたとのことであった。

6. その他

- ・担当理事より、1月23日開催の2019年台風19号等災害調査団報告会をもって、災害調査団を解散する旨報告された。
- ・会長より「火山地域の応用地質と岩の力学に関する国際ワークショップ」の原稿締切が3月31日に延長されたとのことで、積極的に投稿頂きたいとの案内があった。